

特集

# 時を刻んだ

# 沼田の文学碑



名誉市民で戦後の女流歌人の第一人者といわれる生方たつゑや、世には知られなくても文学に情熱を燃やした文化人が多く存在し、市内各地にはさまざまな文学碑が建立されています。沼田の豊かな自然や四季、脈々と受け継がれる風習などが詠まれた文学碑をたどります。

たつゑの碑が建てられている沼田公園は市民の憩いの場。沼田生が朗らかな表情で碑の前を歩く



結婚後まもなくのたつゑ

冬やまの  
瘦せたる<sup>いだ</sup>髪に  
おきわたす  
寝雪の光きびしこのくに

豊かな感受性と風景を詠む

## 生方たつゑ

生方たつゑ(1904~2000年)は、沼田の風景や自然の営みなど数多くの短歌を詠みました。心情の細やかさや感覚の鋭敏さが随所に表れ、和語の美しさを感じられます。

たつゑは三重県宇治山田市(現在の伊勢市)に生まれました。1926(大正15)年10月、後に沼田町長となる生方誠と結婚し、沼田へ嫁ぎました。雪をかぶった谷川岳や山に囲まれた風景を見て、郷里では出会ったことがない厳しさと寒さに不安を覚えたといっています。

2年後に長女を出産。1931(昭和6)年に、郷里の叔父から短